



よこすか市議会だより

No.26

平成29年(2017年) 11月28日号

YOKOSUKA CITY COUNCIL

〒238-8550 横須賀市小川町11番地 ☎046(822)9394 [市議会事務局議事課]

横須賀市議会

検索

pd-ccs@city.yokosuka.kanagawa.jp

発行 横須賀市議会
編集 広報広聴会議

新市長の「横須賀復活」を質す



7月臨時議会

7月26日に臨時議会が開催され、副市長に永妻和子氏と田中茂氏を、教育長に新倉聡氏を選任することに同意しました。また、市長、副市長の退職手当を現任期において支給しない特例措置について可決しました。

9月定例議会

9月4日から10月16日にかけて、9月定例議会が開催されました。初日には上地克明市長の所信表明が行われ、8日と11日にはそれぞれに対して6会派からの代表質問と無党派議員2名の個人質問が行われました。所信表明では今後の市政における方向性が示されましたが、質疑を経て明らかになったことや、今後

平成29年9月22日、議場において議員研修会が開催されました。「議会の政策サイクル—政策の当事者としての地方議会の役割」というテーマで法政大学副学長・常務理事廣瀬克哉氏の講義がありました。横須賀市議会では議員の政策形成及び立案能力の向上に資するため、年2回、議員研修会を開催しています。次回は12月12日午後2時から「水辺空間の再発見・再生によるまちづくり」というテーマで法政大学デザイン工学部教授陣内秀信氏にご講義いただきます。傍聴は当日の開会30分前から市役所R1階にて先着順で受け付けします。

なおりますかにつきことがはつきりしました。9月27日、28日には、所信表明では取り上げられなかった様々なテーマについて11名の議員が一般質問を行いました。補正予算等の議案16件、平成28年度決算関連議案10件は、いずれも可決、認定しました。ただ

し、一般会計歳入歳出決算において、学童クラブへの補助金取り消しの経緯を受け、補助金交付要綱を見直し、学童クラブが継続的・安定的かつ公正な運営ができるような制度構築を求める附帯決議案が提出され、全会一致で可決しました。

9月定例議会 代表・個人質問

9月4日の所信表明において、上地克明市長は横須賀復活を目指すための構想として、海に面したアドバンテージをまちづくりに活かしていく「海洋都市構想」、音楽フェスティバルやダンスフェスティバルの開催、大規模なスポーツ大会の誘致などで、「本物」に触れる機会を増やし、もっと楽しめるまちにする「音楽・スポーツ・エンターテインメント都市構想」、地域特性を活かしながら、「コミュニティ」の再生を図っていく「谷戸再生構想」について語りました。また、大きな構想だけ

でなく、具体的な施策を念頭に4つの計画「経済・産業の復活」、「賑わいの復活」、「子ども教育の復活」、「暮らしやすさの復活」について説明しました。そのほか、ファシリテーターマネジメントの推進、基地について、そして横須賀復活の先にあるものとして、「誰も一人にさせないまち」があると述べ、最後に、行政、議会、関係団体、市民が一丸となって全員野球で取り組む必要があること、そのことについて理解と協力を求めました。これに対して、各議員より代表・個人質問が行われました。

田辺 昭人 議員 自由民主党

横須賀復活にかける市長の基本方針について

市長選に臨むことを決めた際の気持ちや、様々な葛藤があったが、多くの方々から横須賀市を何とかしてほしいという熱い思いを聞く中で、愛する横須賀市をこのままにしてはいけない

という思いから出馬を決断した。

横須賀市の産業、経済を復活させるために、久里浜港の立地特性を十分に活かし、物流の拠点として活用していくための考えを伺う。

積極的にポートセールスを行っていくことも、自ら関係企業や国へトップセールスを行っていく。

横須賀市の悲願といえる国道357号の延伸をどのように実現されるのか。

三浦半島地域広域幹線道路整備促進期成同盟の要望に加え、国と県とのパイプを活かし、あらゆる機会を通じて、直接国に早期整備を要請する。

追浜駅前再開発は、行政センターの移転も含め早期に行うべきではないか。

公共施設を駅前に移転することは市民サービスの向上や地域経済の発展の原動力であると考え、関係機関と調整しつつ積極的に取り組んでいく。

幼稚園、保育園の段階的無償化の目安について、考えを伺う。

本市ならではの政策効果を生み出す段階的無償化のあり方について、検討していく。

小児医療費助成の拡大にかかる経費の概算見込みについて伺う。

小児医療費の通院の助成対象を中学校3年生までに拡大し、所得制限を撤廃することを判断し



久里浜港

た。このことにより、今年度予算より扶助費として約2億6000万円の増額となり、総額約12億5000万円を見込んで

公共施設の更新や再編のあり方、将来像に対する戦略的プランの策定について、考えを伺う。

細かなスケジュールについてはこれから詰めていくが、内部での検討を早急を開始し、外部の有識者などで構成する検討委員会により素案を策定したい。来年度には市議会の皆様と議論しながら内容を詰め、できるだけスピーディーに策定したい。

市の出資法人のあり方について、市が経営に関与する仕組みが必要ではないか。

市は地方自治法の規定により、出資割合の条件を満たす法人に対し、経営状況を調査し、報告を受ける権限を持つが、法人の経営に対して指導や監督を行うことができない。しかし、今後は地方自治法の解釈を踏まえながら、関与できる仕組みや手立てを考えていきたい。

永井 真人 議員

無所属みらい

横須賀復活計画の財源に具体性見えず

問 どのように積極投資する市政へと転換していくのか。

答 積極投資を行っていくためには新たな財源が必要になるので、まずは国、県の財源獲得に乗り出して財政基盤を強化することに取組んでいきたい。

問 谷戸公社を立ち上げるプランは谷戸再生構想に含まれるのか。

答 私が以前提案した谷戸公社については、実際試算した結果、公社という単独手法では本当に財政負担が大きいことがわかったので、撤回させていただく。民間を活用した手法などを研究して、将来的な実現可能性を模索していきたい。

問 何度も訪れたくなるまち横須賀の魅力を引き出すストーリーとは何か。

答 具体的なストーリーや戦略については、平成30年度からスタートする(仮称)横須賀再興プランの中でお示ししたい。

問 幼稚園・保育園の段階的無償化について、どのような財源を充てていくつもりか。また、そのためにいくらかの金額が必要なのか。

答 財源については現時点で新たに確保できていくわけではない。最終的に全部無償化すると20億円以上になる。

鈴木真智子 議員

公明党

「横須賀復活」に向け建設的な議論を展開!

問 上地市長には、市政に対する市民の信頼を取り戻す行政運営をお願いしたい。行政のトップとして信頼回復への決意と覚悟を聞かせてほしい。

答 横須賀市を何とかし

連携し、海洋博物館のような施設の誘致に取り組みたい。また、そのためにいくらかの金額が必要なのか。

答 日本の歴史を後世に伝えるという点においても大変意義深いものであり、国などを主体とした設置への働きかけについて検討していきたい。

問 小児医療費助成を中学校3年生まで拡充することについては、他都市事例を検証し、事業効果が最大限に発揮できるような制度設計が必要ではないか。

答 良いものは積極的に取り入れながら、事業効果が最大限に発揮できるようにしていきたい。

問 ハマちゃんバスの実績を無駄にしないために、市長が主導し、行政が知恵を絞り柔軟な発想で地域交通のコミュニティバスを促進できるような取組んでほしいが、市長の所見を伺う。

答 再開発で医療・福祉ゾーンの配置案も示されているが、拠点病院の配置プランを考えると、うわまち病院を久里浜に移転・建替える検討をすべきと考えるが。

問 うわまち病院の建て替えについては今年度末に答申を受ける予定であり、それを見た上で決めたい。

問 本市の学童クラブは利用率が2万近くで高額

答 まず行うべきは、地域に合った個々のメニューを早急につくることであり、必要があれば、ガイドラインの見直しも含めて検討していく。

問 (仮称)横須賀再興プランを策定するに当たり、一旦すべての事業を見直す事務事業の見直しの必要性を含め、行財政改革に対する市長の考えを伺う。

答 今後も厳しい財政状況であるため、長期的な視点を持ち、限られた財源を効果的に配分していく必要がある。まずはゼロベースで事業効果を検証し、事業の廃止や見直しを行うことによって、財源の確保に努めていきたい。

問 今後、各研究機関に呼びかけ、コミュニケーションを図ることを目的にコミュニティの場を設定し、横須賀発の産業技術が芽生えていくことを期待する。

問 イメージ戦略として、海洋関連の学会・国際会議の開催誘致も必要ではないか。

問 横須賀の海洋都市としてのイメージアップにつながるものであり、誘致していきたい。

問 子どもたちに対して



走水海岸

角井 基 議員 研政

学童クラブ利用料の低廉化を

問 海洋都市構想でマリ

再開発で医療・福祉ゾーンの配置案も示されているが、拠点病院の配置プランを考えると、うわまち病院を久里浜に移転・建替える検討をすべきと考えるが。

問 横須賀の海洋都市としてのイメージアップにつながるものであり、誘致していきたい。

だが、地域力の活用など低廉化への政策的な誘導などについても検討すべきでは。

問 現在の学童クラブの良さを活かしながら低廉化の働きかけをしていきたい。学童クラブと無料利用できる全児童対策と、全体で考えていきたい。

問 幼稚園と保育園の段階的無償化は賛成だが、希望しても保育園に入れない待機児童があつては不公平であり、その解消が必要では。

問 待機児童をゼロに近づけることは、無償化に向

海洋都市構想について

問 海洋都市構想を踏まえ、市内に所在する様々な研究機関・企業の研究者を集めたコミュニケーションの創設が必要ではないか。そしてそこから横須賀発の技術・製品が創出しやすくなることを期待する。

問 今年度、各研究機関に呼びかけ、コミュニケーションを図ることを目的にコミュニティの場を設定し、横須賀発の産業技術が芽生えていくことを期待する。

問 イメージ戦略として、海洋関連の学会・国際会議の開催誘致も必要ではないか。

問 横須賀の海洋都市としてのイメージアップにつながるものであり、誘致していきたい。

問 子どもたちに対して

けた取り組みの大前提だ。地域コミュニティ再生のために、もっと学校施設を活用すべきでは。

問 学校施設の活用は重要。コミュニケーションセンターを学校に移し、地域の核としていくことは私も念願だ。



走水海岸

大村 洋子 議員

日本共産党

「基地のまち」に誇りをもつべきか?

問 市長の強みは何か。ちほ、ものすごい轟音。近隣の10の自治体から900を超える騒音苦情があった。航空母艦の母港である横須賀市民として考えるべきではないか。

問 横須賀市が日米の防衛拠点であるということへの評価はどうか。

問 米海軍基地、陸・海・空の自衛隊、防衛大学校が所在する横須賀が、日本、さらには地域の安全保障を支えているという状況に、私は誇りを持つべきであると考えている。

問 横須賀に入ってくる原子力空母の艦載機は洋上から全て飛び立つ。同じ神奈川県に住む厚木基地周辺の大和や綾瀬の人たち

問 非常に難しい問題だ。綾瀬市民や大和市民に對しても誇りを持つと言えるのか。

問 社会福祉法改正によって地域福祉計画の策定が努力義務化されたが、前市長は策定せず、情けないことに未策定は中核市で2市のみと本市は全国的に遅れているのが現状だ。

問 社会福祉法改正によって地域福祉計画の策定が努力義務化されたが、前市長は策定せず、情けないことに未策定は中核市で2市のみと本市は全国的に遅れているのが現状だ。

問 私共も計画策定は不可欠だと考えており、ぜひ策定する。

問 子ども、高齢に加え、複合多問題に苦しむ人々や制度の狭間でSOSを発信できない人々を包括的に支援する体制づくりが不可欠だ。国がめざす「我が事・丸ごと」地域共生社会の実現の為に、上地市長が横須賀復活の最終目標だと述べた「誰も一人にさせないまち」実現の為に「誰も一人にさせないまち」実現の為に、地域福祉計画の策定を始めるべきだ。

藤野 英明 議員

無会派

「誰も一人にさせないまち」実現の為に

問 社会福祉法改正によって地域福祉計画の策定が努力義務化されたが、前市長は策定せず、情けないことに未策定は中核市で2市のみと本市は全国的に遅れているのが現状だ。

問 子ども、高齢に加え、複合多問題に苦しむ人々や制度の狭間でSOSを発信できない人々を包括的に支援する体制づくりが不可欠だ。国がめざす「我が事・丸ごと」地域共生社会の実現の為に、上地市長が横須賀復活の最終目標だと述べた「誰も一人にさせないまち」実現の為に「誰も一人にさせないまち」実現の為に、地域福祉計画の策定を始めるべきだ。

問 私共も計画策定は不可欠だと考えており、ぜひ策定する。

問 子ども、高齢に加え、複合多問題に苦しむ人々や制度の狭間でSOSを発信できない人々を包括的に支援する体制づくりが不可欠だ。国がめざす「我が事・丸ごと」地域共生社会の実現の為に、上地市長が横須賀復活の最終目標だと述べた「誰も一人にさせないまち」実現の為に「誰も一人にさせないまち」実現の為に、地域福祉計画の策定を始めるべきだ。

※このほかに9月11日に小室車庫議員(無会派)が個人質問を行い、9月27、28日に、杉田輝議員(市政同友会)、藤野英明議員(無会派)、小林伸行議員(研政)、二見英一議員(公明党)、小幡沙央里議員(無所属みらい)、渡辺光一議員(自由民主党)、嘉山淳平議員(無所属みらい)、井口一彦議員(自由民主党)、井坂直議員(日本共産党)、加藤ゆうすけ議員(無所属みらい)、田中洋次郎議員(自由民主党)が一般質問を行いました。

予算決算常任委員会

平成28年度決算議案を認定しました

今定例議会では補正予算、決算議案が提出され、各分科会で予算の執行や各事業が適正かつ効果的に行われているか詳細な審査を行いました。

予算決算常任委員会は、9月22日、28日及び10月12日に会議を開き、9月22日の委員会では、一般会計の補正予算とその他条例改正の3議案について各分科会委員長からの審査経過報告を受け、1件は全会一致で、残り2件は賛成多数で原案どおり可決しました。



高規格救急自動車

また、積載する器材については各器材の内容と見積額、点検方法と器材の耐用年数などについて質疑があり、採決の結果、議案はいずれも可決しました。

平成28年度の一一般会計の補正予算に關する審査では、救急自動車3台と当該車両に積載する器材を更新計画に基づき更新するための、所要の補正について質疑を行いました。

また、平成28年度の水道・下水道事業会計決算の審査では、他都市心急活動に係る防災協定の内容、上町・下町バイパス管築造工事遅延による上町浄化センター廃止時期への影響、水道・下水道事業において薬品使用量が減少した理由などについて質疑を行いました。

平成29年度の補正予算に關する審査では、市内教育保育施設の防犯対策の状況、保育所整備補助事業実施後の保育施設に対する検査方法、小児医療費助成制度の拡充及び所得制限廃止における財源根拠などについて質疑がありました。

また、常任委員会では、地域包括支援センターの人員等に関する基準を定める条例中改正の改正理由及び改正に至った背景などについて質疑があり、採決の結果、付託された議案は全て全会一致で可決すべきものと決定しました。

陳情については、3件の審査を行い、いずれも委員の意見が一致せず審査を終了しました。

会期後半の分科会では、平成28年度の各会計の決算議案について部局別に審査を行い、女性医師による女性のための健康相談の実施

生活環境常任委員会(分科会)

高規格救急車等の更新計画に係る補正予算を可決

平成29年度の補正予算に關する審査では、5年以上使用した救急自動車3台と当該車両に積載する器材を更新計画に基づき更新するための、所要の補正について質疑を行いました。

また、積載する器材については各器材の内容と見積額、点検方法と器材の耐用年数などについて質疑があり、採決の結果、議案はいずれも可決しました。

平成28年度の水道・下水道事業会計決算の審査では、他都市心急活動に係る防災協定の内容、上町・下町バイパス管築造工事遅延による上町浄化センター廃止時期への影響、水道・下水道事業において薬品使用量が減少した理由などについて質疑を行いました。

平成29年度の補正予算に關する審査では、市内教育保育施設の防犯対策の状況、保育所整備補助事業実施後の保育施設に対する検査方法、小児医療費助成制度の拡充及び所得制限廃止における財源根拠などについて質疑がありました。

また、常任委員会では、地域包括支援センターの人員等に関する基準を定める条例中改正の改正理由及び改正に至った背景などについて質疑があり、採決の結果、付託された議案は全て全会一致で可決すべきものと決定しました。

陳情については、3件の審査を行い、いずれも委員の意見が一致せず審査を終了しました。

会期後半の分科会では、平成28年度の各会計の決算議案について部局別に審査を行い、女性医師による女性のための健康相談の実施

常任委員会の審査から

教育福祉常任委員会(分科会)

放課後児童クラブへの補助金交付などを審査



平成29年度の補正予算に關する審査では、市内教育保育施設の防犯対策の状況、保育所整備補助事業実施後の保育施設に対する検査方法、小児医療費助成制度の拡充及び所得制限廃止における財源根拠などについて質疑がありました。

また、常任委員会では、地域包括支援センターの人員等に関する基準を定める条例中改正の改正理由及び改正に至った背景などについて質疑があり、採決の結果、付託された議案は全て全会一致で可決すべきものと決定しました。

陳情については、3件の審査を行い、いずれも委員の意見が一致せず審査を終了しました。

会期後半の分科会では、平成28年度の各会計の決算議案について部局別に審査を行い、女性医師による女性のための健康相談の実施

会期後半の分科会では、平成28年度の各会計の決算議案について部局別に審査を行い、女性医師による女性のための健康相談の実施

総務常任委員会(分科会)

横須賀ナンバー導入に関して多くの議論

平成29年度の補正予算として、国土交通省が地方版図柄入りナンバープレート、いわゆる「ご当地ナンバー」の導入地域の募集を開始したことに伴い、横須賀ナンバーの導入に向けた検討を行うため、市民と事業者の意識調査を行うアンケート経費約127万円を計上する提案がありました。

ご当地ナンバー導入の目的は横須賀への愛着を深めることに加えて、知名度の向上、観光振興を図ることとの説明がありました。市民生活に密接な案件であるため、委員から多くの質疑がありました。

また、陳情を1件審査しました。市内某地で進む宅地造成について、悪質であるため市の許可取消を求めるものでした。本件については、市の許可に瑕疵を認める声はなく、了承しませんでした。

都市整備常任委員会(分科会)

ベイスターズ総合練習場建設に向けた議案等審査

都市整備常任委員会では、市長から提案を受けた議案3件について審査しました。うち、議案第79号は、横浜DeNAベイスターズ総合練習場の長浦町から横須賀スタジアムへの移転に際して、追浜公園での練習設備整備工事の契約をするものでした。

予算決算常任委員会都市整備分科会では、市長から提案を受けた議案3件について審査しました。

予算決算常任委員会都市整備分科会では、市長から提案を受けた議案3件について審査しました。



ベイスターズファーム練習場のイメージ図

予算決算常任委員会都市整備分科会では、市長から提案を受けた議案3件について審査しました。

予算決算常任委員会都市整備分科会では、市長から提案を受けた議案3件について審査しました。



ご当地ナンバーイメージ

(委員長 土田弘之宣)

(委員長 南まさみ)

(委員長 伊藤順一)

(委員長 加藤眞道)

(委員長 嘉山淳平)

平成29年7月臨時議会・9月定例議会審議結果

○は賛成、×は反対

議案番号	賛否が分かれた議案	会派						無会派	
		自由民主党	無所属みらい	公明党	研政	市政同友会	日本共産党	小室卓重	藤野英明
67	市政功労者を定めることについて	○	○	○	○	○	○	○	×
69	平成29年度横須賀市一般会計補正予算(第2号)	○	○	○	○	○	○	×	○
72	議会議員及び長の選挙における選挙運動の公費負担に関する条例中改正について	○	○	○	○	○	○	○	×
73	医療費助成条例中改正について	○	○	○	○	○	○	×	○
75	地区計画の区域内における建築物の制限に関する条例中改正について	○	○	○	○	○	×	○	○
79	(仮称)追浜公園総合練習場整備工事請負契約の締結について	○	○	○	○	○	○	○	×
81	平成28年度横須賀市一般会計歳入歳出決算	○	○	○	○	○	×	○	×
82	平成28年度横須賀市特別会計国民健康保険費歳入歳出決算	○	○	○	○	○	×	○	○
84	平成28年度横須賀市特別会計介護保険費歳入歳出決算	○	○	○	○	○	×	○	○
87	平成28年度横須賀市特別会計後期高齢者医療費歳入歳出決算	○	○	○	○	○	×	○	○
90	平成28年度横須賀市病院事業会計決算	○	○	○	○	○	×	○	×

*その他議案20件については、全会一致で可決、認定または同意しました。詳細は市議会ホームページにも掲載してありますので、ご覧ください。

*議長は、議事を取り仕切る立場から、採決に加わりません。

【会派所属議員名】平成29年10月16日現在

- 自由民主党 田辺昭人 大野忠之 青木哲正 青木秀介
木下憲司(議長) 松岡和行 渡辺光一 西郷宗範
南まさみ 井口一彦 田中洋次郎
- 無所属みらい 永井真人 嘉山淳平 矢島真知子 はまのまさひろ
葉山直 小幡沙央里 山本けんじゅ 加藤ゆうすけ
- 公明党 板橋衛 鈴木真智子 土田弘之宣 石山満
関沢敏行 本石篤志 二見英一
- 研政 伊関功滋 長谷川昇 小林伸行 高橋英昭 角井基
- 市政同友会 伊藤順一 伊東雅之 加藤眞道 杉田惺 山口道夫
- 日本共産党 大村洋子 ねぎしかずこ 井坂直

決議

件名	結果
平成28年度横須賀市一般会計歳入歳出決算に対する附帯決議	可決

陳情

件名	結果
特定C型肝炎ウイルス感染者救済特別措置法の給付金請求期限延長及び対象拡大を求める意見書の提出について	審査終了
障害児者・透析者を含む移動困難者に対する通院支援について	審査終了
配慮ある重度障害者医療費助成施策の実施について	審査終了
宅地造成許可の取り消しについて	趣旨不承

*審査終了とは、委員の意見が一致しないなど委員会としての結論が出せずに審査を終えた場合を言います。

12月定例議会のお知らせ

開催日	会議名
11月28日(火)	議会運営
11月29日(水)	本会議、予算決算常任(11時)
11月30日(木)	(予備日)
12月4日(月)	教育福祉常任(予決算分科会)、都市整備常任(予決算分科会)
12月5日(火)	(予備日)
12月6日(水)	総務常任(予決算分科会)、生活環境常任(予決算分科会)
12月7日(木)	(予備日)
12月8日(金)	中学校完全給食実施等検討特別委員会
12月11日(月)	(予備日)
12月12日(火)	予算決算理事会、予算決算常任(11時)、議員研修会(14時)
12月13日(水)	(予備日)
12月14日(木)	議会運営、本会議(14時)

*時間の記載がないものは10時開会です。
*特別委員会については、日程が追加される場合があります。

議会報告会の見直しを行っています

～開かれた議会を目指して～

横須賀市議会広報広聴会議では、平成30年4月下旬に開催予定の議会報告会に向けて、より多くの方に来ていただくための会場のあり方と、議会の広聴機能強化の取り組みについて協議を行っています。

これまでの会議で、交通の便がよい3つの会場で開催し、このうち1か所には手話通訳、要約筆記及び託児サービスを準備すること、市議会からの報告に続き、参加者と議員でグループをつくって意見交換を行うことを決定しました。

開催日時や会場などは、平成30年2月発行の市議会だより第27号でお知らせします。

また、一般向けの開催とは別に、若い世代との意見交換を目的として、学生を対象とする議会報告会を行うことも決定しました。

関東学院大学からインターンを受け入れ

8月7日～10日、議会として初めてインターンを受け入れました。学生は本市議会と包括的パートナーシップ協定を結ぶ関東学院大学の学生2名。はじめに市議会事務局から業務の説明等があり、その後は各会派で学生を受け入れました。

ごみ屋敷対策検討協議会に出席したり、予算要望書作成のための会議や地元住民との会議への参加、議員の市内視察への同行などで、市の現状や課題等を認識、共有する機会を設けることができました。

私たち議会としても、市の課題に関して学生と意見を交わすことができ、貴重な機会となりました。今後も、議会を身近に感じてもらえるように様々な活動を行ってまいります。

新市長誕生とともに議会にも新人2人が加わり、新たなスタートとなりました。9月議会では新市長に対し、より具体的な展望や施策を問う活発な質疑がありました。議会と市長双方の、よりよい市政へ向けた熱い思いが、この紙面から感じられたら幸いです。

